貸借対照表

2022年3月31日現在

(単位:千円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	209,312	流動負債	82,372
現金及び預金	10,705	未払金	24,241
売掛金	69,210	未払費用	10,841
前払費用	3,046	未払法人税等	1,226
預け金	118,042	未払消費税等	14,241
その他	8,307	契約負債	252
固定資産	38,805	預り金	9,568
有形固定資産	16,129	賞与引当金	22,000
建物	9,759	固定負債	6,691
工具、器具及び備品	6,369	退職給付引当金	199
無形固定資産	1,059	役員株式給付等引当金	6,492
ソフトウェア	1,059	負債合計	89,064
投資その他の資産	21,616	純資産の部	
関係会社株式	11,700	株主資本	159,054
繰延税金資産	9,916	資本金	30,000
		資本剰余金	25,172
		その他資本剰余金	25,172
		利益剰余金	103,881
		利益準備金	7,500
		その他利益剰余金	96,381
		繰越利益剰余金	96,381
		純資産合計	159,054
資産合計	248,118	負債・純資産合計	248,118

損 益 計 算 書

〔 自 2021年4月1日
至 2022年3月31日 〕

(単位:千円)

科 目	金 額	
営 業 収 益		
業 務 受 託 収 入		750,032
営 業 費 用		
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		709,711
営 業 利 益		40,321
営 業 外 収 益		
受 取 配 当 金	2,340	
保 険 配 当 金	1,176	
そ の 他	1	3,517
営 業 外 費 用		
そ の 他	5	5
経 常 利 益		43,833
税 引 前 当 期 純 利 益		43,833
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	11,022	
法 人 税 等 調 整 額	4,582	15,604
当 期 純 利 益		28,228

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

関連会社株式・・・移動平均法による原価法

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品・・・・・・・・先入先出法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3年～50年

工具器具備品 4年～15年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

自社利用のソフトウェア 5年

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支払いに備えるため、将来の支給見込額のうち、当事業年度の負担額を計上しております。

(2) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支払いに備えるため、支給見込額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(15年～17年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(13年～17年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

(4) 役員株式給付等引当金

役員株式給付規程に基づく役員等への親会社株式等の給付に備えるため、当事業年度末における株式給付債務の負担見込額に基づき計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する、主要な事業における主な履行義務は、総務業務、経理業務、人事業務等に関する役務提供であり、当該履行義務を充足するにつれて、顧客が便益を享受することから、一定の期間にわたり収益を認識しております。

5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

(1) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。